

沖代地区条里跡 48次調査

宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

沖代地区条里跡
48次調査
宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

中津市文化財調査報告
第96集

2020
中津市教育委員会

2020
中津市教育委員会

沖代地区条里跡 48次調査

宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2020

中津市教育委員会

序

大分県の最北部に位置する中津市は、国指定名勝耶馬溪など緑豊かな自然や城下町の香りを色濃く残す、自然と文化の町として知られています。近年は、自動車関連会社などの進出・稼働を受け工業の町としての新たな側面を見せはじめています。

令和元年度の試掘・確認調査件数は前年度よりやや減少し、本発掘調査は公共工事、民間開発に伴うものを中心に実施しております。今後、東九州道などへのアクセス道路、インター周辺の開発等が予想されるため、埋蔵文化財を取り巻く状況の厳しさは続くことが予想されます。しかし、文化財は現代に生きる我々が責任をもって未来へ伝えていかななくてはなりません。

本書はこうした開発の中で、中津市大字永添232-2外の宅地造成工事に先立ち、中津市教育委員会が実施した沖代地区条里跡48次調査の発掘調査報告書です。調査により古墳時代か古代と考えられる溝状遺構などが発見され、永添地域及び中津市の歴史を考える上で貴重な調査となりました。

本書が学術研究資料としてはもとより、埋蔵文化財の保護やその理解への一助となりましたら幸いです。

最後に、発掘調査から報告書刊行に至るまでご協力賜りました㈱R&F代表取締役小川隆司様をはじめ、関係各位、及び調査に従事して下さいの方々に対し、深甚から感謝申し上げます。

令和2年3月6日

中津市教育委員会
教育長 粟田 英代

例 言

1. 本書は中津市教育委員会が、平成31（2019）年度に行った宅地造成に伴う沖代地区条里跡48次調査の報告書である。
2. 発掘調査費及び報告書作成業務費は㈱R&F代表取締役小川隆司氏と契約書を締結し実施した。
3. 確認調査・本調査は浦井直幸が担当した。
4. 現場作業は、臨時職員の青英木、今永夏樹、上田和幸、小川礼子、甲斐嘉夫、久原彰、福成誠一の協力を得た。
5. 遺構の実測・撮影、遺物の撮影は浦井が行った。遺構図浄書・遺物実測等は、久原彰の協力を得た。
6. 現場で用いた座標は世界測地系による。
7. 遺構の表記は次のとおりである。SD＝溝状遺構
8. 図面等記録類は中津市歴史博物館に、出土遺物は旧東谷小学校体育館に保管している。
9. 本書の執筆・編集は浦井が行った。

目 次

序

例言

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の方法と成果	4
第1節 調査の方法	4
第2節 調査の成果	4
第4章 総括	7
写真図版	
報告書抄録	

挿 図 目 次

第1図 中津市内主要遺跡分布図	3
第2図 調査区位置図	4
第3図 遺構配置図	4
第4図 基本層序	5
第5図 SD1・2平面図、土層図、出土遺物	6
第6図 遺構検出時出土遺物	7
第7図 坪界線と調査区	8

表 目 次

第1表 出土遺物観察表	9
-------------	---

写真図版目次

写真図版1 全景 SD1・2検出状況 SD1・2完掘	
写真図版2 SD1完掘 SD2完掘 SD1近景 トンネル状遺構	
写真図版3 SD1・2北壁土層 SD1北壁土層 SD2北壁土層 作業風景 7トレンチ 7トレンチ溝状遺構 出土遺物	

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

平成31年2月27日、㈱R&F代表取締役小川隆司氏（以下、工事主体者）より、中津市大字永添232-2外地内の埋蔵文化財包蔵の照会がなされ、予定地は沖代地区糸里跡に含まれていること、文化財保護法93条第1項に基づく届出が必要であることを回答した。2月28日、届出が提出され工事は2,867㎡の水田跡地に8区画の分譲地と道路を建設する内容であることがわかった。同日、県文化課へ届出を進達し、3月6日付にて県文化課より工事着手前に記録作成のための発掘調査を実施するよう工事主体者へ通知がなされた。

3月18日、予定地に9本のトレンチを設定し確認調査を実施した。その結果、予定地西側にて溝状遺構を検出した。一部は予定地内の道路にかかることから、工事主体者と協議の結果、当該部分の本調査を実施することとした。

調査の結果、溝状遺構や複数の柱穴などを確認した。調査終了後、報告書作成作業を開始し、令和2年3月の本書刊行をもって本事業を完了した。

第2節 調査体制

調査主体	中津市教育委員会		
調査責任者	栗田 英代	（中津市教育委員会教育長）	
調査事務	大下 洋志	（ 同 教育次長）	
	高尾 良香	（ 同 社会教育課長）	
	高崎 章子	（ 同	文化財室長兼中津市歴史博物館館長）
	花崎 徹	（ 同	文化財室主幹兼中津市歴史博物館副館長）
	河野さくら	（ 同	管理・文化振興係主幹）
	村上 豊成	（ 同	管理・文化振興係主幹）
	速水 誠	（ 同	管理・文化振興係員）
	渡邊奈津子	（ 同	管理・文化振興係員）
担 当	浦井 直幸	（ 同	文化財室文化財係兼中津市歴史博物館員）

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

中津市は大分県の最北部に位置する。人口約8万4千人、面積491km²を誇る。北は周防灘に面し、西は福岡県、東は宇佐市、南は玖珠町・日田市と境を接する。英彦山に源を発する一級河川山国川が市内を南から北へ貫流し流域一帯を潤す。上中流域は山々に囲まれた地形で、山国川やその支流により開析された河岸段丘上に集落は営まれる。頼山陽により絶景と称された奇岩・奇勝の多くは名勝那馬溪として国の指定を受ける。下流域は沖積作用による県北最大の平野「沖代平野」と洪積台地「下毛原台地」が広がる。

扇状地の沖代平野は、治水地形分類図や過去の発掘調査によって、微高地や谷地形、自然堤防など複雑な地形であったことがわかりつつある。

第2節 歴史的環境

旧石器時代 市内の遺跡を概観すると旧石器時代の石器は才木遺跡(35)や法垣遺跡(19)で発見されている。

縄文時代 上畑成遺跡(43)で早期の無文土器が検出された。早期末から前期は黒水遺跡(18)で陥し穴が発見された。遺跡数は縄文後期から増大し、植野貝塚やボウガキ遺跡(21)、女体像と見られる土偶が出土した高畑遺跡がある。法垣遺跡は複数の掘立柱建物が発見され注目されている。

弥生時代 前期後葉から中期初頭の上ノ原平原遺跡(13)で貯蔵穴群が確認された。続く中期では二列埋葬の土壙墓・住居跡・溝が福島遺跡(25)で確認され、前期末から後期初頭の集落全域が森山遺跡(28)で検出された。

古墳時代・古代 亀山(亀塚)古墳(58)が挙げられる。調査せず破壊されたため詳細は不明であるが、近年行った発掘調査により埴輪片が出土している。その他の墳墓の多くは下毛原台地の南西に造営される。5世紀前半には山国川に面する脇助野地遺跡(12)で方形周溝墓が造営され、5世紀後半から7世紀前半にかけては上ノ原横穴墓群(11)が開発する。古墳時代後期には三保地域に岩井崎横穴墓群(29)、城山古墳群(34)、城山横穴墓群(33)などが見られる。また、7世紀から9世紀にかけて相原山首遺跡(7)で方墳が造られる。古墳時代後期の集落は諸田遺跡(45)や定留遺跡(47)でまとまって発見されている。古代には7世紀末に百済系の相原廃寺(6)が建立される。また、遅くとも8世紀初頭には沖代平野に条里制(4)が施行されたと考えられ、条里の南限は「勅使街道」と呼ばれる古代官道が走る。8世紀中頃には官道南側に下毛郡衛正倉に推定される長者屋敷官衛遺跡(20)が確認された。須恵器や瓦を製作した生産遺跡は、草場窯跡(37)、踊ヶ迫窯跡(38)、洞ノ上窯跡(31)などがある。集落遺跡としては10世紀代の緑釉陶器や墨書土器が出土した三口遺跡(60)がある。

中世 長久寺の田丸城跡(24)など中世城館が市内各地に築かれる。16世紀末は黒田氏の入封によって中津城(1)が築城される。近年の調査によって、中津城は石垣に高度な構築技法が採用された現存する九州最古の近世城郭であることが判明した。

近世 関ヶ原の合戦後、黒田氏に替わって細川氏が入部し、城・城下町は整備・拡張される。城下の造営は小笠原氏が入部する1632(寛永9)年に完成を見る(2)。1717(享保2)年に奥平氏が入部し、1871(明治4)年の廃藩置県まで城下は奥平氏が統治した。



- | | | | | |
|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| 1. 中津城跡 | 13. 上ノ原平原道跡 | 25. 福島道跡 | 37. 草場窯跡 | 49. 和間貝塚 |
| 2. 中津城下町道跡 | 14. 大池南道跡 | 26. 福島地下式横穴 | 38. 踊ヶ道窯跡 | 50. 定留鬼塚道跡 |
| 3. 豊田小学校校庭道跡 | 15. 佐知久保畑道跡 | 27. 前田道跡 | 39. ホヤ池窯跡 | 51. 是徳道跡 |
| 4. 沖代地区条里跡 | 16. 佐知道跡 | 28. 森山道跡 | 40. 大谷窯跡 | 52. 田尻大迫道跡 |
| 5. 市場道跡 | 17. 加来居屋敷道跡 | 29. 岩井崎横穴墓群 | 41. 野依道跡 | 53. 舞手橋東段上道跡 |
| 6. 相原廃寺 | 18. 黒水道跡 | 30. 大丸川流域道跡 | 42. 野依地区条里跡 | 54. 是間道跡 |
| 7. 相原山首道跡 | 19. 法垣道跡 | 31. 洞ノ上窯跡 | 43. 上畑成道跡 | 55. 全徳道跡 |
| 8. 鶴市神社裏山古墳 | 20. 長者屋敷官衙道跡 | 32. 安平道跡 | 44. 諸田南道跡 | 56. ガラヌノ道跡 |
| 9. 坂手隈城跡 | 21. ボウガキ道跡 | 33. 城山横穴墓群 | 45. 諸田道跡 | 57. 合馬道跡 |
| 10. 幣原塚古墳群 | 22. 大悟法地区条里跡 | 34. 城山古墳群 | 46. 天貝川道跡 | 58. 龜山古墳 |
| 11. 上ノ原横穴墓群 | 23. 原道跡 | 35. 才木道跡 | 47. 定留道跡 | 59. 東浜道跡 |
| 12. 勘野野地道跡 | 24. 田丸城跡 | 36. 城山窯跡群 | 48. 定留貝塚 | 60. 三口道跡 |

第1図 中津市内主要遺跡分布図 (S=1/50,000)

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

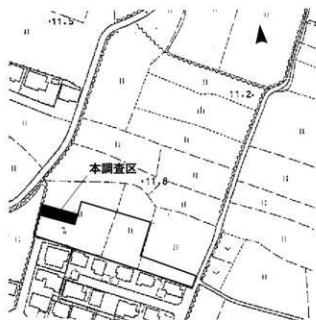
本調査は宅地造成地内の道路建設予定地170mを対象とした。遺構面までの掘削は重機を使用し、地表面から40cmの深さまで掘削した。表土除去後から調査終了に至るまでの作業は人力で実施した。

第2節 調査の成果

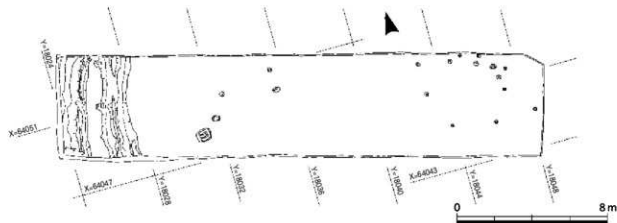
調査の結果、調査区西端で2条の溝状遺構とそのやや東よりにて複数の柱穴状遺構、調査区東端付近で10数基の小さな柱穴状遺構を検出した。調査区中央部や東端部に3基の風倒木痕があり、東端部の小穴は樹木の根の痕跡の可能性もある。なお、確認調査時に本調査区南に設定した7トレンチ（第7図参照）では幅の狭い北東-南西方向を指向する溝状遺構を1条検出している。

調査区の標高は約11m。基本土層図（第4図）を見ると、1・2・3・4は水田層と考えられ、3層は水田床土層（4層）を伴う。1から5層はマンガン粒が多いことも特徴である。繰り返し水田が営まれていたことがわかる。遺構検出面直上の6層は層厚5cmと薄い。調査区東端から調査区外の東側では地山が緩やかに下降し、石原を検出している。また造成地中央付近は地山の標高が最も低く湧水した。よって、本調査区の東側は谷地形があり、自然流路が存在した可能性がある。自然流路内では弥生土器片が一定量出土し、須恵器や古代と考えられる土器小片も出土している。この自然流路の続きと考えられる石原の地形は造成地東端に設定したトレンチでも確認しており、規模の大きい谷地形が存在したものと推定する。

確認調査・本調査にて出土した遺物はパンケース1箱に満たない量であった。



第2図 調査区位置図 (S=1/2,500)



第3図 遺構配置図 (S=1/200)

遺構と遺物

古墳時代か古代

溝状遺構

SD1・2 (第5図)

調査区西端に位置し、両遺構とも緩やかに弧を描き、南北方向を指向する。西側をSD1、東側をSD2とする。SD1南端は攪乱されており、電柱アンカーの鉄筋が認められた。SD1は、長さ5.4m、最大幅1.7m+ α 、深さ40cmを測る。底面は中央から南側で拳大から人頭大の川原石が多数出土しているが、北側に向けて減少し、北端は灰色の砂質土と

なる。溝東側は、中央付近は立ち上がりがなく溝状を呈していないが幅40cmの窪みがある。土層上では明確に確認できなかったが、東側の幅の狭い溝を西側へ拡張したものと思われる。東側の幅の狭い溝の中央付近に立ち上がりがないことも溝の拡張によるものと考えられ、この時点で幅の狭い溝の機能は失われ、幅の大きい溝に取り込まれたものと思われる。

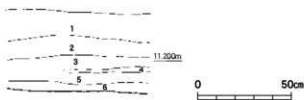
SD2はSD1から幅50cmを空け構築されている。長さ5.4m、最大幅1.7m、深さ32cmを測る。底面の石原の状況はSD1と同じである。土層図を見ると2つの窪みがある。7層を切るように5層が認められるため、7層が古く、5層が新しいことになる。平面図でも一部途切れるが西側に幅約70cmの溝状の窪みも認められる。SD2は西側に拡張されている可能性が高い。

よって、SD1・2の両遺構は当初小規模な溝であったが、西側にそれぞれ拡張され溝の規模が拡大したものと考えられる。また両遺構は重複することなく、同じ方向を指向しているため、機能した時期は同時期であると推定する。

トンネル状遺構 (第5図)

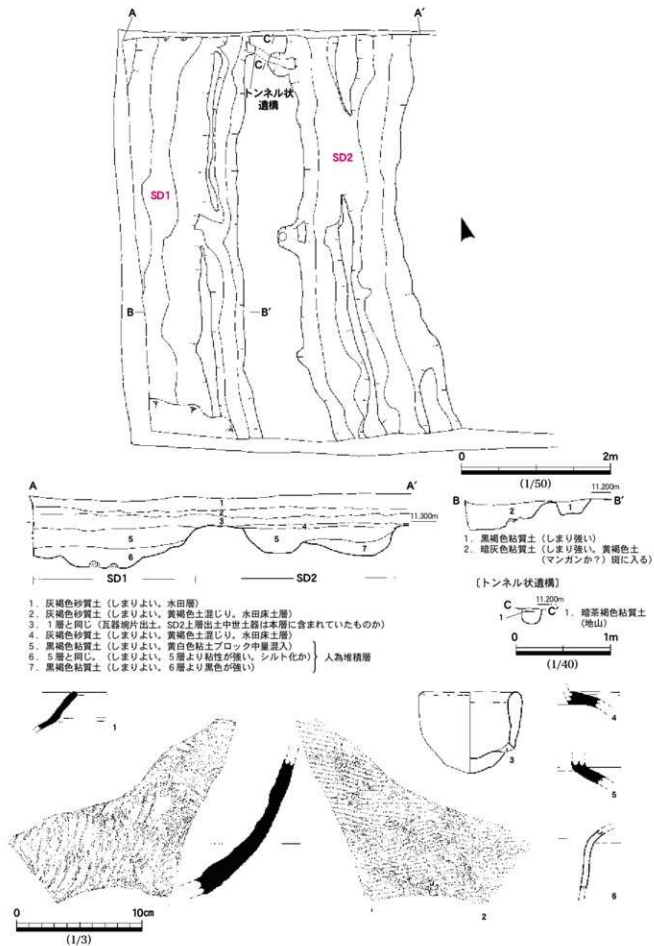
さらに注目される遺構として、SD1・2を繋ぐようなトンネル状の遺構を確認した。両遺構の北端部で確認したもので、東側上面は調査時に掘り過ぎていたが、長さ50cm、幅40cm、高さ12cmを測る。SD1・2を掘り下げ途中、溝の立ち上がり部(壁面)に楕円形の黒褐色土を検出したため、掘削したところ貫通したトンネル状の形状となったものである。本遺構については、木の根の痕跡とも考えたが、根が派生した際に認められる小穴なども存在しないこと、上面の地山も乱れていないことから、地山をくり抜くように構築された遺構と思われる。SD1・2を繋げる遺構である可能性があるが、その性格・用途については現段階では不明である。

遺物は少量出土している。1～3はSD1出土遺物。1・2は須恵器。1は甕や高坏などの口縁部と考えられる。2は甕などの胴部片。SD1北端部の地山直上から出土した。3は蛸壺。体部と底部の境付近に穿孔が認められる。蛸壺が沖代地区条里跡で出土することは珍しい。4～6はSD2出土遺物。4・5は須恵器で、ともに壺か甕の肩部付近と思われる。6は土師器。甕であろう。



1. 灰褐色砂質土 (しまりよい、水田層)
2. 暗褐色砂質土 (しまりよい、マンガン粒多い、水田層か)
3. 1層と同じ
4. 暗黄褐色砂質土 (しまりよい、水田床土層)
5. 暗黄褐色砂質土 (4層より黄色度が強い)
6. 暗茶褐色砂質土 (しまりよい)

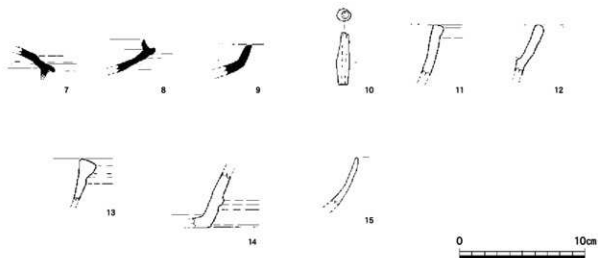
第4図 基本層序 (S=1/20)



第5図 SD1・2平面図 (S=1/50)、土層図 (S=1/40)、出土遺物 (S=1/3)

遺構検出時出土遺物（第6図）

遺構検出時に水田層などから遺物が出土した。7～9は須恵器。7は蓋。8は杯身で、かえり部が短く立ち上がる。TK209段階、6世紀末～7世紀初頭の資料。9は盤か。口縁部が上外方へ伸びる。10は長さ4cmの土鍾。時期不明ながら、SD1出土蛸壺の存在と考え合わせると興味深い。11～14は瓦質土器。11・12は鍋。13は鉢。外反し肥厚する口縁部をもつ。14は火鉢の底部。突帯を有する。体部はやや上外方へ伸び、直立しない。15は磁器碗。二重網目文をもつ18世紀後半代の資料。



第6図 遺構検出時出土遺物（S=1/3）

第4章 総括

本報告では調査によって2条の溝状遺構などを検出し、その溝が拡張されたことやトンネル状の遺構の存在を報告した。遺物はSD1より蛸壺が出土していることが特筆される。蛸壺は市内ではこれまで諸田遺跡などの海岸部の遺跡で発見されることが多く、沖代地区糸里跡では初出ではないかと思われる。本調査地で発見されたということは付近で漁撈活動が行われていたか、製作地があった可能性を示す資料であり興味深い。

本調査や確認調査時のトレンチで確認できた地勢から往時の景観について考えると、第3章第2節で述べたように、今回の宅地造成地は本調査地付近の標高が最も高く、東側は谷地形が存在し大規模な自然流路があったと想定される。今回確認した溝状遺構はその形状から自然流路ではなく、人為的なものと考えられ、高地に構築された水路跡と推定する。

次に、溝状遺構と糸里跡について考察する。第7図は今回調査したSD1・2を表面糸里の推定坪界線に重ねたものである。遺構は南北の坪界線に近く糸里に存在した可能性のある溝との関連も想定されるが、出土遺物は古墳時代後期と推定されるものが多く、糸里とは時期が異なる。しかし、糸里の溝状遺構に古い遺物が混入した可能性も考えられるため、本報告では溝状遺構の時期については不明としておく。今後の類例の増加を待ちたい。

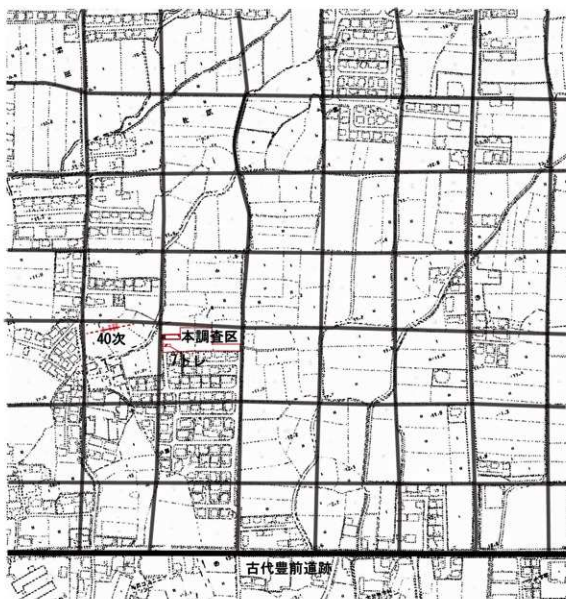
調査区周辺の過去の発掘調査成果を見ると、糸里制施行以前（弥生期・古墳時代期）の溝状遺構

は、調査区西側の40次調査など条里内で多く確認されている。ただ、溝が指向する方向は一様ではなく、自然地形やその他の制約に左右された結果と思われる。条里制施行以前、水田はそれらの溝状遺構に近い位置に営まれたものと思われる。しかし、谷地形と谷地形の間に営まれた水田は小規模であり、収穫量は低かったことが予想される。

条里制施行はこのような水田経営から脱却し収穫高の増大を企図して、中央政府主導のもと各地へ導入されたものと思われる。条里制の施行は、自然流路や谷部、そして前代に構築された溝状遺構を埋め、地面を平坦にならし、碁盤目状に区画された耕地を作り出すことであった。これは豪族中心の古墳時代では困難な土木事業であり、律令を中心とした中央政府による強力な力がなければならなかったことであろう。条里制施行は、収穫高のアップを第一義としたものであろうが、その出現は豪族から中央政府への権力移行を民衆に強く印象づけるものであり、視覚的な効果をも副次的に狙った可能性もある。

今回の調査を通して条里施行前後の沖代平野の様相がまた一つ明らかとなった。

以上、沖代地区条里跡48次調査の発掘調査成果とその意義を述べ、総括とする。



第7図 坪界線と調査区

第1表 出土遺物観察表

出土遺物番号	遺物番号	器種	法量 (cm)			残存率	調整	焼成	胎土	色調	備考
			器高	口径	底径						
SD1	1	須恵器・鉢?	(2.9)	-	-	(小片)口縁	ナデ回転方向	良好	-	内外面: 灰色 (5Y 6/1)	
SD1	2	須恵器・壺	(15.5)	-	-	(小片)体部下半	内面: タタキ目 (青海波) 外面: カキ目	良好	-	内外面: 灰白色 (2.5YR 7/1)	内面に黄色の付着物あり 外面に茶色の付着物あり (炭化物?)
SD1	3	土師器・胡床	6.3	(8.0)	-	1/3	ナデ	やや不良	0.5mmの石英を少量含む 褐色の砂粒を含む	内外面: 灰白色 (7.5YR 8/2)	内から外に向けての穿孔あり (確認できるのは一つのみ)
SD2	4	須恵器・壺or甕	(1.2)	-	-	(小片)体部上位	内面: 回転ヨコナデ 外面: ナデ	良好	-	内外面: 褐色 (5YR 5/1)	
SD2	5	須恵器・壺or甕	(1.8)	-	-	(小片)体部上位	内外面: 回転ヨコナデ	良好	-	内外面: 褐色 (10YR 6/1)	
SD2	6	土師器・壺	(4.7)	-	-	(小片)口縁	ハケ目のちナデ	良好	1~2mmの角閃石を少量含む 1mmの石英を少量含む 1mmの褐色砂粒を少量含む	内外面: にぶい褐色 (7.5YR 7/3)	
一括	7	須恵器・杯蓋	(2.2)	-	-	(小片)口縁	内面: ナデ 外面: 回転ヨコナデ	良好	-	内面: にぶい褐色 (10R 6/3) 外面: 灰白色 (8/1)	
一括	8	須恵器・杯身	(2.5)	-	-	(小片)口縁	回転ヨコナデ	良好	-	内面: 灰色 (7.5YR 6/1) 外面: 灰色 (N 6/1)	
一括	9	須恵器・壺	(2.4)	-	-	(小片)口縁~ 底部上位	回転ヨコナデ	良好	-	内面: 褐色 (10YR 6/1) 外面: 褐色 (7.5YR 5/1)	
一括	10	土師器・土鉢	4.1	径: 3.0		完形	成形: 手づくね	良好	0.5mm以下の石英・炭石を少量含む	外面: 灰白色 (2.5Y 7/1)	
一括	11	瓦質土器・鍋	(4.0)	-	-	(小片)口縁	ナデ	良好	1mmの角閃石を少量含む 1mmの褐色砂粒を少量含む 0.5mmの炭石を少量含む	内外面: 灰黄褐色 (10YR 6/2)	
一括	12	瓦質土器・鍋	(4.3)	-	-	(小片)口縁	内面: 回転ヨコナデ 外面: ハケ目のちナデ	良好	-	内外面: 黄褐色 (10YR 3/2)	
一括	13	瓦質土器・鉢	(2.1)	-	-	(小片)口縁	ナデ	良好	1mmの角閃石を少量含む 0.5mmの炭石を少量含む	内外面: にぶい褐色 (5YR 7/4)	外面に植物繊維の付着あり
一括	14	瓦質土器・火鉢	(4.3)	-	-	(小片)体部下位	内面: ナデ 外面: ヨコナデ	良好	1~3mmの褐色砂粒を少量含む 0.5~1mmの角閃石を少量含む 0.5~1mmの石英を少量含む 3~5mmの白色土じり	内外面: にぶい褐色 (7.5YR 6/3)	
一括	15	磁器・碗	(3.8)	-	-	(小片)口縁	成形: ロクロ	精緻		両面の色調: 淡緑青色	染付透明釉 文様(外面)二重線目文

写 真 图 版

写真図版 1



全景（西から）



SD1・2検出状況（南から）



SD1・2完掘（南から）

写真図版 2



SD1完掘 (北から)



SD2完掘 (北から)



SD1近景 (北から)



トンネル状遺構 (東から)



トンネル状遺構 (東から)



SD1・2北壁土層



SD1北壁土層



SD2北壁土層



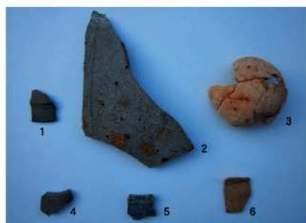
作業風景



7トレンチ (西から)



7トレンチ溝状遺構 (西から)



出土遺物

報 告 書 抄 録

書名	おき たい ちく じょう り 跡 じ ちよう さ 沖代地区条里跡48次調査								
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書								
巻次									
シリーズ名	中津市文化財調査報告								
シリーズ番号	第96集								
編著者名	浦井 直幸								
編集機関	中津市教育委員会								
所在地	〒871-8501 大分県中津市豊田町14番地3 TEL 0979-22-1111								
発行年月日	2020年3月6日								
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	面積(m ²)	調査原因	
沖代地区条里跡	大分県中津市大字 永添232-2外	44203	203007	33° 34′ 38″	131° 11′ 39″	20190403 ～ 20190415	170	宅地造成	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
沖代地区条里跡	集落	古墳時代か 古代	溝状遺構	須恵器・土師器		幅1.7mの溝状遺構を2 条調査した。			
要約	幅1.7mの溝状遺構を2条発掘調査した。溝状遺構は人為的に構築されたもので、小規模な溝を拡幅している様子が窺えた。溝の埋没時期は出土遺物から古墳時代後期の可能性があるが、8世紀初頭に施行された条里の推定坪界線に近く、条里の溝状遺構の可能性もある。溝状遺構北側で両溝を繋ぐような用途不明のトンネル状遺構も確認した。また、沖代地区条里跡では珍しく蛸壺が出土している点も特筆される。								

沖代地区条里跡48次調査

宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

中津市文化財調査報告 第96集

2020年3月6日

発行 中津市教育委員会

印刷 藤川原田印刷社